

〔紫翠会〕
藤田 健志 委員



■湯沢駅周辺複合施設等整備事業について

質疑 建設費増額における契約変更の内容などを市民に対して説明する必要性について考えを伺う。

答弁 準備が整い次第、早期に市民の皆様へ説明する。また、完成間近には、施設の利用手順など、施設の予約方法や施設ごとの特色を広報で特集し紹介していく。

質疑 既存の駅前駐車場が工事のため狭く不便であるとの声があるが、現在工事中の立体駐車場を早期オープンできないかを伺う。

答弁 施設全体が一体的な発注となっているため、部分引渡しとはいえない状況である。

■湯沢生涯学習センター等跡地活用事業について

質疑 隣接する湯沢城址公園も一体的に整備する計画があるのか伺う。

答弁 多世代が集い、交流できる公園を目指し、中央公園愛護会や中心商店街、商工団体、子育てサークルなどの関係団体と協議し、公園整備構想を進めている。キーワードとして、四季を彩る自然、癒やし、城跡、学校の文化、鳥海山や市街の眺望などを意識する。

質疑 犬っこまつりの会場として再復活できないかを伺う。

答弁 メイン会場とするには狭いと考えるが、実行委員会と協議を重ねる。大行列や七夕絵灯ろうまつりなどの各種イベント開催時には、にぎわい創出の拠点になるように考える。

■地域公共交通活性化事業について

質疑 オンデマンド交通運行計画策定方針を伺う。

答弁 公共交通を取り巻く環境が大きく変化する中、様々な課題が表面化している。全国的な課題である交通サービスの維持、継続は、本市でも最大の課題であり、利用者の減少で市の財政負担が大きく、こうした交通課題は、地域住民の生活全体に関わる課題へと広がっている。この現状を踏まえ、新計画策定では、人口減少や高齢化が進む中、サービスとコストのバランスを図り、利用者

の多様な移動ニーズを考え持続可能な交通サービスの再編を図る方針である。

質疑 令和10年度の本格運行とあるが、「Yuinias」完成による早期実現が可能なかを伺う。

答弁 国の補助金などの関係から3か年計画の、令和10年度から本格運用で進める考えである。

〔政和会〕

石川 隆一 委員



■移住・定住促進事業について

質疑 移住相談窓口を通じた移住実績133世帯のうち、移住後の定着率や転出実態の把握状況を伺う。

答弁 現在も本市に居住されている方は99世帯、174人で定着率は約7割となっている。移住後の経過年数に伴い、転出される方が多くなる傾向にあり、一過性の支援にとどまらない継続的なフォローアップ体制の構築が重要な鍵であると捉えている。

質疑 若者世帯住宅取得費用補助金の申請件数と定住促進への実効性についての評価を伺う。

答弁 令和8年2月末現在の適用事前確認件数は20件。うち補助金が交付された方は、若者夫婦のみの世帯4件、子育て世帯の加算を受けた世帯8件、さらに、子育て世帯で本市に移住され加算を受けた世帯2件となっており若者世代への定住支援は有効であると評価している。

■地域自治組織支援事業について

質疑 重点事業に新たに町内会運営力アップのメニューが創設されるが具体的な内容を伺う。

答弁 地域ビジネスの枠組みに加え、市の出前講座などを活用し、町内会運営をテーマに住民が話し合いを深め、担い手不足など深刻な課題に対応した町内会の在り方を考える機会としていただきたい。

